

「乳幼児におけるアレルギー性鼻炎の病態の解明」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学病院IRB(アイ・アール・ビー)の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2022年2月4日から2024年5月12日の期間に埼玉医科大学病院小児科を受診し、本研究にご協力くださったアレルギー性鼻炎様の症状認める方(1歳～小学校未就学の6歳まで)を対象としております。

2. 研究の目的

アレルギー性鼻炎と気管支喘息は合併しやすいことがわかっています。気管支喘息を発症、あるいは増悪しないようにするためには、アレルギー性鼻炎の治療をしっかりと行うことが大切です。しかし、乳幼児は、年長児や成人のように、症状を正確に伝えられず、また、感染症との鑑別も簡単ではありません。そこで、本研究では、乳幼児におけるアレルギー性鼻炎の病態を解明することにより、より早期の診断と治療介入を目指すことを目的としています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2031年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年6月1日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

既往歴、家族歴、現病歴などの問診、一般診察、治療内容、アレルギー性鼻炎、気管支喘息などの問診表の結果、血液と鼻腔内洗浄液(または鼻汁吸引液)から得られた好酸球、総IgE、抗原特異的IgE、皮膚テスト、呼気中一酸化窒素測定、呼吸機能検査などの診療録の情報を使います。また、患者様から得られた血液、鼻腔内洗浄液(または鼻汁吸引液)を用いて、IgE抗体、抗原特異的IgE、およびそれらの産生に関わるタンパク質や遺伝子レベルでの発現についてELISA、PCR、Western blot、フローサイトメトリー(FACS)、マルチプレックスアッセイなどで評価いたします。

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院小児科の研究責任者である板澤寿子が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

本研究の協力にご同意いただいた方の検体、検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者(研究実施機関)

研究責任者:

埼玉医科大学病院小児科 教授 板澤寿子

研究実施者:

埼玉医科大学病院小児科 非常勤講師 植田 穰

埼玉医科大学病院小児科 講師 盛田英司

埼玉医科大学病院小児科 非常勤講師 古賀健史

埼玉医科大学病院小児科 助教 岡田慶介

埼玉医科大学病院小児科 非常勤医師 清水貴寛

埼玉医科大学病院小児科 助教 渡邊諒子

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院小児科 教授 板澤寿子

5. 試料・情報の提供方法等について

当院単独の研究かつ検査・解析は当施設で行いますが、本研究の試料・情報は、将来、現在実施中のシーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社との共同研究「アレルギー疾患における抗原特異的IgG および IgG4 抗体の臨床的意義の解明」に利用されることがあります。詳しくは担当医にお聞きいただくか、もしくは、埼玉医科大学病院ホームページをご確認いただくことができます。

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 小児科 板澤寿子

住所: 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話: 049-276-1218(土日祝日を除く 8:30~17:30)

○研究課題名: 乳幼児におけるアレルギー性鼻炎の発症機序の解明

○研究責任者: 埼玉医科大学病院 小児科 板澤 寿子